

平成 22 年 8 月 5 日

秋田県知事  
佐竹 敬久 様

社団法人秋田経済同友会  
代表幹事 佐藤暢男  
代表幹事 藤原清悦  
代表幹事 那波宗久  
同 高速道路特別委員会  
委員長 伊藤久一

### 日沿道未着工区間への県発注による工事着手の提言

時下、貴職におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は社団法人・秋田経済同友会の活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、高速交通時代の幕開けとともに全国各地で高速道路建設が進められ、秋田県でも秋田自動車道が全線開通し、物流や人的交流などに寄与してまいりました。その後、日本海沿岸東北自動車道（日沿道）や東北中央自動車道に着手したものの、ミッシングリンクとも言える未着工区間が残ったままであり、早期着工・全線開通は本県経済界をはじめ県民の悲願となっております。

そうした中、前原誠司国土交通相は高速道路整備を抑制する方針を打ち出し、2010年度の公共事業費では日沿道の二ツ井白神—あきた北空港間、象潟—遊佐間、東北中央自動車道の雄勝—新庄間の未着工区間への予算配分はゼロという結果となりました。もし高速道路整備費の抑制方針が継続されるならば、全線開通という県民の悲願は夢のまた夢ともなりかねません。

こうした情勢下、社団法人秋田経済同友会は県北部の二ツ井白神—あきた北空港間（17 ㎞）の県発注による優先的な建設を提言いたします。残る未着工2区間の早期着工も不可欠であり、今後も要望運動などを強力に続けてまいります。県北部の優先着工を提言する理由は、現在、大館北—小坂JCT間、大館南—あきた北空港間を整備中であり、これらと結ばれる未着工区間の解消は、立ち遅れが指摘されている県北部の経済の活性化や、注目されているリサイクル産業の推進、さらには大館能代空港の搭乗率向上などさまざまな経済効果にとどまらず、文化や人的交流、高度医療施設への1時間カバー圏域の実現、災害時の素早い出動態勢などが期待されると思慮するからです。

この未着工区間の従来工法による概算工事費は 600 億円とも推計されております。厳しい県財政からこの工事費を捻出するのは難しいことは十分承知しております。しかし、国基準の規格・仕様を含め従来の整備手法にこだわらず、県発注によるアクセス道建設の模索や、当該自治体による用地取得など、知恵を集結することにより大幅なコストダウンが可能と考えます。

秋田経済同友会は、県発注による未着工区間の建設の検討とともに、それに向けた概算事業費のシミュレーション作りに早期に着手していただくことを要望、提言いたします。

地方自治体からの新たな発想による大幅なコスト低減の手法を国へ提示し、実現した場合、国政へも大きなインパクトを与え、全国に先駆けたモデルケースとして注目されると確信しております、ぜひ提言の趣旨をお汲み取りいただき、県民の悲願成就のため実現に向けて早急にご検討いただくことを切望いたします。